

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人香川大学

1 全体評価

香川大学は、「世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を養成し、地域社会をリードするとともに共生社会の実現に貢献する。」ことを理念としている。第3期中期目標期間においては、地域社会の課題解決に資する教育・研究等の実績を基に、地域活性化の中核的拠点としての機能強化を目指すとともに、特定の分野においては、世界ないし全国的な教育研究を目指すことを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、地域創生を担う人材育成と香川県への学生の定着促進を期待した単位互換協定に基づく香川と東京圏の大学生対流促進事業において連携を図るとともに、世界をリードする「希少糖研究」を推進するため、国際的研究拠点となる国際希少糖研究教育機構を設置し世界トップクラスの研究者の招へいや部局を超えた研究体制の強化を図るなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 人材育成に関するニーズ調査として、大学院教育やリカレント教育に対する動向を測るため、地元企業等の人事担当者等を対象としたヒアリング調査を行っている。ヒアリングの調査結果を踏まえて、専門テーマや解決すべき課題に即し柔軟に科目群を設定できるユニット制の導入や文系理系を超えて共通に必要な知識等を学ぶための共通科目の導入等の分野融合型研究科設置の基本計画案を作成している。（ユニット「地域からの要望を踏まえた教育研究組織の見直し」に関する取組）
- 日本人学生と留学生が気軽に集まり交流する場であるイングリッシュ・カフェを「プログラムを強化し留学に繋げる」ことを目的として「グローバル・カフェ」と名称を変更し、英語を中心としつつも多言語（中国語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、韓国語、タイ語）のネイティブスピーカーによる会話指導、留学生による授業・文化紹介や異文化交流イベント等、留学生と日本人学生の交流の機会を充実させるための取組を通じて、楽しみながら語学力を高め、更なる異文化理解を促進することができる場としている。（ユニット「グローバル人材の育成」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 事務組織の再編による機能強化

業務執行体制の明確化、企画立案機能の充実を目的として、法人本部を室制から部制とするなど、事務組織を再編するとともに、産官学連携体制の強化を図るため「地域創生推進部」を、地域定着・地方創生に貢献する人材養成を行うため「共創人材養成グループ」を設置することとしている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善 ④予算編成の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、一定以上の注目すべき点があること等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 地元企業への訪問等の取組による外部資金比率（寄附金）の上昇

学長、理事、副学長が地元企業等を訪問し、これまでの人材育成や産業活性化の成果を説明するといった取組等を積極的に推進した結果、寄附金収入が平成30年度の7億1,968万円から令和元年度は8億7,278万円と過去最高額となっており、令和元年度における寄附金に係る外部資金比率は約2.4%（対前年度比約0.4ポイント上昇）となっている。

（3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（4）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 多様な教育の展開

より幅広くより深く学びたい学生向けの副専攻型教育プログラム「ネクストプログラム」に、これまで実施してきた「グローバル人材育成プログラム」「防災士養成プログラム」に加え、令和元年度から、多角的な視点で物事を捉える力を養成するために哲学・歴史・芸術・文化等の人文学の様々な分野を学べる「ヒューマニティーズ養成プログラム」を開設するとともに、令和2年度から、DRIについてより深く学びたい学生のための「DRIイノベーター養成プログラム」を開講することとしている。

※ DRI教育：インフォマティクス（Informatics）の基礎の上にデザイン思考能力（Design Thinking）とリスクマネジメント能力（Risk management）を養成するための教育

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 臨床研究支援体制の充実

令和元年度から医師1名をCOI管理及び教育のために配置し、教育訓練講習会にて研究者らに対しCOI管理の教育を行うなど、臨床研究推進のための組織体制を強化している。

（診療面）

○ 社会的要請の強い医療の充実に向けた取組

地域医療機関からの相談を直接附属病院の専門医が受けるホットラインについて、がん・消化器・循環器・脳卒中に加え、令和元年5月から小児外科の新たな設置や、香川県が実施する「乳幼児レスパイト事業」への参加、令和元年度総合防災訓練における広域医療搬送実動訓練及び令和元年度四国DMAT実働訓練、かがわ災害医療ロジスティクスワーキンググループへ参加するなど、県内の医療機関との連携や社会的要請の強い医療の充実に取り組んでいる。

（運営面）

○ 医師の働き方改革の推進

原則、患者・家族への病状等説明を平日の診療時間内に実施することとし、労働時間の短縮を図るとともに、分娩に従事する医療従事者の処遇の改善を図るため、平成31年4月分から、時間外における分娩手当を支給するなど、医師の働き方改革を推進している。